

広
報
T E N S H I - H O S P I T A L

天使びょういん



T E N S H I - H O S P I T A L



INDEX

- p2-3 Scope「医療安全対策室」
- p4-5 特集「院内&地域のアレコレ取材!」
- p6 シリーズ「天使病院の天使たち」(第8回)
- p7 健康レシピ
「太らない体づくり500kcalレシピ」
- p8 お知らせ

謹賀新年



「医療安全対策室」

～ Medical safety measures room ～

医療安全対策室は、医療に携わる職員が、「安全な医療を提供できる」ように、そして患者さんが「安心して医療を受けられる」ように支援していく部署です。今回は医師・医療安全管理者の皆さんに、医療安全の取り組みや役割などについて教えていただきました。

K: 医療安全対策室をご紹介ください。

KT: 医療安全対策は、室長の小林先生、医療安全管理者の私と事務の3名で構成されています。今年の11月に前任者の桜庭さんから引き継ぎ、私が医療安全管理者として中心的に実務を行っています。桜庭さんには現在オブザーバーとして参加いただいています。

S: 天使病院で組織的に医療安全活動をはじめたのは平成15年でした。当時、外科の樟本先生と医療安全管理者が中心となってマニュアルの整備やセーフティマネージャーの育成、職員への医療安全教育を行ったのがはじまりです。当時は「医療安全対策室」という部署はありませんでしたが、その後、厚生労働省の医療安全に関する活動の推進と医療法の改正などがあり、「医療安全対策室を設置して医療安全管理者を置かなければならない」ということになりました。それに伴い当院でも平成18年4月に『医療安全対策室』を新設しました。

K: 少人数で、どのように病院全体の医療安全の活動を行っているのですか？

KT: 医療安全対策室が主催する「セーフティマネージャー連絡会議」という委員会を医療安全対策室の下部組織として活動を展開しています。この委員会には各部署から選出された委員約40名が参加しています。委員は情報を各部署に持ち帰り、部門長と協力しながら医療安全の活動にあたっています。

W: 活動内容をわかりやすく教えてください。委員には具体的にどのような情報を伝達しているのでしょうか？

KT: 事故が起こらないようにする「防止」についてと、もしも事故が起きてしまった時の「対応」について。大きく分けるとこの2点が主なテーマです。委員を通じて医療安全に関する情報を発信したり、具体的な防止策や対応策について委員と一緒に考えたりしています。

W: 例えばどのような医療事故がありますか？差し支えない範囲で教えてください。看護師の視点では患者さんの転倒や薬の間違ひが多い気がするのですが…



KT: お答えしづらい質問ですね(笑)。正直にお話すると天使病院で一番多いのは「薬」や「処置」に関することですね。名誉のために申し上げますが、実際に患者さんに大きな影響を及ぼしてしまう「事故」ではありません。「患者さんに影響が無かった(ヒヤリハット)」もしくは「少なかった」誤りのことです。これをインシデントと言います。ただし、患者さんへの影響の有無や大小に関らず「事故」が発生した場合、必ず報告書を提出しなければならないルールになっています。報告書を統計的に見ると、当院ではヒヤリハットの「事故」の割合が高いことが特徴といえます。これは、医療事故防止策が取られているため、大きな事故になる前の早い段階で「事故」に気付いているということです。

E: 事故自体は本来あってはならないものですが、小さなレベルの時点で気付く対策を考えるとこの点が大事なのですね。

KT: 医療安全対策では「未然防止」が一番重要といわれています。

K: 医療安全管理者のお仕事について教えてください。

KT: 事故の未然防止のためにも、なぜその事故が起きたのかを検証することが大きな役割だ





インタビュー
看護師
若槻 (W)



インタビュー
臨床工学技士
越前谷 (E)



インタビュー
生理検査技師
小林 (K)



小林医療安全対策
室長 (KO)



桜庭副看護部長
(オブザーバー) (S)



片川医療安全
管理者 (KT)



と思っています。例えば、万が一大きな事故が起きてしまった場合、直接その患者さんのところに向いてお話を伺うこともあります。事故後、身体に影響が出ていないか、ベッドなど身の回りの環境に問題はないかなどを確認します。また報告書を見るだけでなく、当事者から現場の状況を直接確認もします。再発防止には欠かせない重要な仕事です。年間の報告書件数は1,400件ほどです。全てを現場に確認することは難しいですが、影響は小さくても同じような事故が何度も続いている例では必ず確認に向かうようにしています。それと、毎朝8時から小林室長と打ち合わせを行い、事故の報告や対策について検討をしています。

W: 事故の報告書件数1,400件というのは一般的なのでしょうか?

KT: 一般的な報告件数は病床数×4~5倍はあると言われていています。当院の病床数は260床ですから、おおよそ平均的な件数といえますね。

K: 当院の医療安全対策室の特徴はありますか?

KT: 他の病院の方から言っていたいただいてわかったことですが、「医師が協力的」ということです。先生たちが、会議にも積極的に参加し、実践もしてくれます。また、多職種との連携が取れていることに驚かれます。

W: 医療安全対策室としての今後の課題を教えてください。

KO: 報告書の件数は妥当だと言いましたが、医療安全対策に対する意識が全職員に十分浸透したとは言い切れません。職種によっても異なりますし、細かいことを言うと医師からの報告書の提出は他職種と比べて少ないと感じています。「報告書を書く」という認識があまりないのかもしれませんが、そういったことも含め、全職員の意識を高めて、医療安全に対する天使病院の風土を作っていくことが今後の課題と考えています。

K: 最後に患者さんや職員に伝えたい事、アピールしたい事などがあればお願いします。

S: 特に、インシデントに関する報告書は、大きな事故を未然に防ぐために非常に重要です。人・環境・システムなど「目に見えないところに潜んでいる問題」の炙り出しにとっても役立っています。これからも小さな事故を見逃さず、未然に防げるよう努力していきます。

KO: 医療安全対策というのは「人がミスしたことを責める」というものではありません。なぜミスをしたか、その原因を環境面やシステムで変えていきます。例えば人によって手順が違うためにミスが多ければ、その手順を統一することが医療安全対策室の仕事です。また、最近では患者誤認防止強化策として、入院患者さんへのリストバンド導入も前向きに検討中です。これをきっかけにこういう部署があることを知っていただき、安心して医療を受けていただければと思います。

KT: 患者さんは、「失敗がなく」「痛くなく」、安全に入院生活を送りたいという気持ちがあると思いますので、そのお気持ちに応えるために活動していきたいと思っています。あまり知られていないのですが、「患者相談窓口」という患者さん向けの相談窓口を西棟1階「社会医療事業課」に設けています。医療安全に関する相談があれば私が直接出向きますので、小さなことでもお気軽にご相談ください。

無菌治療室

第1診療部副部長・血液内科 主任科長 高橋 徹 先生

Profile

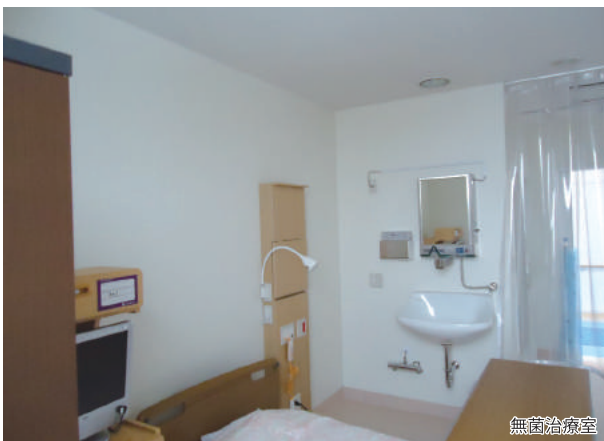
札幌医科大学卒・医学博士。札幌北野病院、札幌医科大学附属病院、市立三笠病院などを経て2000年より天使病院。平澤内科呼吸器科クリニックの平澤院長(P5)とは同期。

〈資格〉

日本血液学会 専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 など

天使病院では2013年暮れに新病棟が完成し、西6階病棟に無菌治療室5室が整備されました。無菌治療室管理加算1を取得した部屋が3室、無菌治療室管理加算2を取得した部屋が2室となっております。いずれも個室で、シャワー、トイレも備えていますので、個室(逆)隔離が必要な方には以前よりも段違いに快適な環境で治療を受けていただいております。しかも6階ですので、窓からのながめが大変よろしいです。

最近では従来からの「無菌病室」という表現は適当でないという観点から、感染に対する抵抗力の減弱した患者さんを治療する部屋を「易感染患者用病室」と呼ぶようになりつつあります。CDC(米国疾病予防管理センター)のガイドラインなどで、過度な設備や管理は無意味だといわれており、日本でも少しずつ易感染患者用病室(無菌病室)自体が見直されるようになってきました。しかしながら、それでもなお長期に白血球数が低下する患者さんにとって無菌治療室は強い味方です。



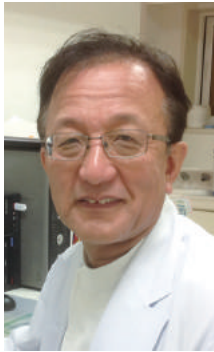
保険診療上対象となる疾患は急性白血病、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血です。いずれの疾患も治療に伴い長期間白血球数が低下しますので、低下時には無菌治療室で過ごしていただいております。悪性リンパ腫等に対する大量化学療法後に白血球数が極端に減少した方にも使用していただいております。人の少ない時間帯には、病棟内の廊下を歩行していただくことも可能です。病棟の床面積が広いので、廊下を一周すると100mを超える散歩道となります。



血液内科では外来での化学療法が行われる機会も多くなってきました。当院では広くて明るい外来化学療法室を新設し経験を積んだ認定看護師を配置して、血液がん、消化器癌、肺癌、乳癌、婦人科癌に対する化学療法を行っています。血液内科の外来化学療法で一番多い疾患は悪性リンパ腫です。高齢の方や合併症のある方をのぞき、初回治療以外は基本的には外来で施行しています。R-CHOP療法という治療が最も多く行われており、それ以外では多発性骨髄腫に対してベルケイド、骨髄異形成症候群に対してビダーザという薬の投与などが行われています。

次々に新薬が登場し、過去には不幸な転帰をとらざるを得なかった疾患の患者さんが劇的に回復するようになってきました。少しでも良い治療ができるよう、無い知恵をしばり、老体にムチうって日々努力しております。

医療法人社団
平澤内科呼吸器科クリニック



ひらさわ みちお
院長 平澤 路生 医師

Profile

医療法人社団平澤内科呼吸器科クリニックの院長。釧路市出身。趣味は釣り。主にルアー釣り。家族で行った初めてのワカサギ釣りで、家族で一番釣れなかったことで“どうすれば釣れるのか？”を探求し始めたことがきっかけ。今も釣果よりも“どう釣るか”を試行錯誤するプロセスを楽しむ。

Q. クリニックの沿革を教えてください。

大学病院、札幌鉄道病院を経て平成13年10月にここへ来ました。当時は斎藤医院でしたが、平成15年12月に名称を医療法人社団平澤内科呼吸器科クリニックに変更して現在に至ります。

Q. 診療上のポリシーをうかがえますか。

クリニックを始めた頃は、今までの病院とは違い入院病棟がなく外来診療だけということ、また検査や治療も大きく違うということに着任したばかりの時は正直とても戸惑いました。そんな中で、患者さんがどんな生活をしているのかを知り、病気だけをみるのではなく“生活の中の病気”としてみるのが大切だと気がきました。病気を治療するだけでなく、その人がどう生きたいかという望みに沿ってサポートする。そのためにできることを『できるところまでやる』という思いです。

Q. 在宅医療を始められたきっかけを教えてください。

在宅医療を始めたのも、できることを『できるところまでやる』ためです。始めたばかりの頃は、その思いはあるものの在宅診療の認知度も低く、どう進めていけばよいか思案することが多かったのですが、そんな時、地域自立生活応援センターからの依頼で右大腿部軟部肉腫の患者さんを在宅診療で診ることになりました。その方の背負っていた生活背景、病状はともに非常に過酷で、入院して治療を受けることが最善ではないかと思える状況でした。しかし彼

女の願いは自宅で最期を迎えたいということだったので。そこで有志が集まり彼女を支え、最期は本人の希望通り在宅で看取ることができました。この経験が、その人の望む『どう生きるか』を尊重する医療こそが私たちの役割だと気付かせてくれましたし、前述のポリシーにつながっています。そして今も在宅医療に力を入れている原動力になっています。

Q. 先生が今後目指していることがあれば教えてください。

今までも、そしてこれからも外来診療と在宅医療を両立することです。2年に1度行われる医療費改定は経営的には厳しい方向へ向かっていますが、できることをできるところまでやっていくことですね。4年前に斎藤大先生(循環器内科)が着任しましたし、今まで以上にきめ細かく、隙間なく対応していきたいと思っています。

Q. 天使病院との連携について、望むこと

総合病院と私たちでは役割やできることが異なります。必要な時に必要な医療を提供できるようにスムーズな連携を今後ともお願いしたいと思います。

医療法人社団
平澤内科呼吸器科クリニック

所在地:〒065-0025 札幌市東区北25条東3丁目3-11

電話:011-711-8297

診療科目:内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、アレルギー科

休診日:木曜日午後、土曜日午後、日曜日、祝日

診療時間

時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●※
13:00~18:00	●	●	●	—	●	—

※土曜日は13:00まで。木・土曜AMのみ。
※木・土曜PMは在宅医療。





天使病院の天使たち!

認定看護師のお仕事 vol.4

～感染管理認定看護師～

認定看護師のお仕事、今年度最終回は「感染管理」認定看護師の専門性、取り組みや活動についてご紹介します。



感染管理

認定看護師 感染対策室 鎌田 明 主任



感染管理認定看護師は、患者さんや職員を感染症から守る役割を担う看護師です。普段は病院内で主に3つの活動を行っています。1つめは、手指衛生をはじめとする院内感染を予防する技術を院内全職員に教育し、確実に患者さんに提供できるようにすることです。2つめは、院内に存在する感染症患者さんから別の患者さんに感染が広がらないよう、正しい管理がされていることを日々確認し、感染が拡大していないか監視することです。3つめは感染症の患者さんに適切な治療が提供されるよう、感染症を専門とする医師、薬剤師、検査技師と一緒にチームを組んで検討、確認をすることです。

感染防止技術は患者さんを守るため、院内全ての職員が責任を持って実行すべきものであると思います。それゆえに、看護師だけでなく、さまざまな職種でリンク会を運営して丸となって天使病院の感染防止技術の向上に努めています。以前の様に、病棟看護師として患者さんと触れ合う機会が少なくなったことは少しさびしいですが、現在行っているこれらの活動が患者さんの健康の回復につながっていると信じて毎日頑張っています。

在宅での介護や治療に関しての感染対策にも対応していますので、なにか疑問に思うことや困っていることがありましたらいつでもお声をかけてください。



糖尿病予防教室 (毎月第3水曜日 14:00～15:00開催)

<天使ホールC>



本教室は、糖尿病の患者さんとそのご家族だけではなく、糖尿病に関心のある全ての方を対象とした教室です。予約は必要ありません。どうぞお気軽にご参加下さい。

※(料理教室)事前の申し込みが必要です

日程	時間	テーマ	担当者
1月		お休み	
2月17日(水)	14:00～14:30	大切な足を守ろう	外来 看護師 森山由希子
	14:30～15:00	立ち上がる時、「どっこいしょ」といってませんか	理学療法士 山田 冬馬
3月16日(水)	14:00～14:15	2016年版 食品成分表について	管理栄養士 佐々木正子
	14:15～15:00	糖尿病教室1年間のまとめ	糖尿病科医師 吉田 和博

生活習慣病の予防のための

太らない体づくり

500kcal
レシピ



正月太り解消メニュー

たんぱく質 27.2g 脂質 8.8g
塩分 3.5g 食物繊維 8.6g

1食あたり

529kcal

- ◆里芋とじゃこのおかゆ
- ◆トマトと玉ねぎの重ね蒸し
- ◆豚しゃぶ肉とチンゲン菜のおろしソース
- ◆千切り野菜のひじきドレッシング
- ◆フルーツ(うさぎりんご&キウイフルーツ)



Comment

「体重コントロール」は生活習慣病予防の基本。

1年の始まりに新しい生活習慣を取り入れて、まずは正月太りを解消してみませんか? 食事で健康的に減量するには、「①主食・主菜・副菜をそろえて、栄養のバランスを整える。」「②早く減量したい方や飲酒と菓子をなかなか止められない方は、夕食の主食を控えて代わりに夕食の野菜の副菜を増やす。」の2つのポイントを心がけると良いでしょう。(参考: 図1、図2)

今号では、お正月の食べ過ぎで疲れた胃に負担をかけないように、主食にお粥料理を選択しました。主菜にはさっぱりした味付けの豚しゃぶ肉を、副菜は旨みと食感が楽しめる野菜料理2品を紹介します。料理はすべて、2月16日(火)開催予定の「糖尿病予防バイキング形式料理教室」で提供します。(栄養科 佐々木正子)

図1: 主食・主菜・副菜の内訳

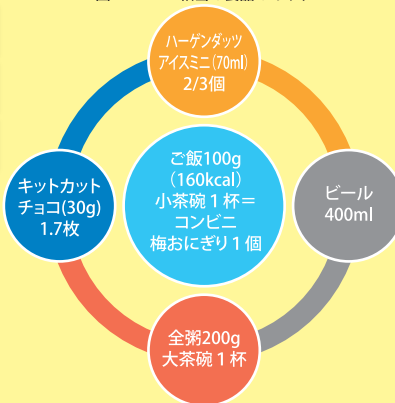
栄養のバランス調整のために
主食、主菜、副菜を
そろえる

主 食(炭水化物を多く含む)
ご飯・パン・麺・イモ類

主 菜(たんぱく質を多く含む)
魚・肉・卵・大豆・乳製品類

副 菜(ビタミン・ミネラル、食物繊維を多く含む)
野菜・海藻・きのこ類

図2: 160kcal相当の食品のめやす



里芋とじゃこのおかゆ

たんぱく質 5.5g 脂質 0.4g
塩分 1.6g 食物繊維 1.7g

1人分

245kcal

【材料(1人分)】

・ごはん(米)	120g(60g)	・ちりめんじゃこ	2g
・だし汁	250ml	・葉ネギ	1g
・里芋	45g	・酒	3g
・乾燥ワカメ	1g	・塩	1g

【作り方】

- ①米を洗ってざるに上げて水気をきいた後厚手なべに入れ、だし汁を加えて10分ほどおく。
- ②里芋は皮をたわし等でこすって除き、1cm厚さの輪切りにし、塩(分量外)でもんで水で洗い流す。葉ネギは小口切りにする。
- ③①のなべに里芋、ワカメ、ちりめんじゃこ、葉ネギ、酒、塩を加えて混ぜ、やや強火にかけ、煮立ったら弱火で約20分炊く。火を消し、ふたをして5分ほど蒸らして茶碗に盛り、葉ネギを散らす。

トマトと玉ねぎの重ね蒸し

たんぱく質 1.4g 脂質 0g
塩分 0.5g 食物繊維 2.0g

1人分

49kcal

【材料(1人分)】

・トマト	80g	・①塩	0.5g
・玉ねぎ	80g	・②こしょう	0.2g
・大葉	0.5g	・③白ワイン	3g

【作り方】

- ①蒸し器に湯を沸かす。
- ②①を混ぜ合わせておく
- ③トマトと玉ねぎは、1cmの厚さの輪切りにする。
- ④器に③を玉ねぎ、トマト、玉ねぎ、トマトの順に重ね、②をふり、蒸気の上があった蒸し器に入れて中火で15分ほど蒸す。仕上げに、千切りした大葉を飾る。



豚しゃぶ肉とチンゲン菜のおろしソース

たんぱく質 18.6g 脂質 6.0g
塩分 0.7g 食物繊維 1.8g

1人分

154kcal

【材料(1人分)】

・豚ももしゃぶしゃぶ用肉	80g	・①大根おろし	30g
・酒	3g	・②酢	2g
・チンゲン菜	100g	・③オリーブ油	3g
・④めんつゆ(3倍希釈)	5g	・⑤こしょう	0.2g

【作り方】

- ①①を混ぜ合わせ、30分ほどおく。
- ②チンゲン菜は根本を除いて株ごと縦に8等分する。塩湯に軸から入れてゆで、ざるにとる。
- ③同じ塩湯に酒を加えて豚肉を1枚ずつ広げて入れ、煮立らない火加減で色が変わるまでゆでる。ざるに上げ、湯を切る。
- ④器に豚肉とチンゲン菜を盛り、①をかける。

千切り野菜のひじきドレッシング

たんぱく質 1.1g 脂質 2.3g
塩分 0.7g 食物繊維 1.4g

1人分

40kcal

【材料(1人分)】

・水菜	20g	・①酢	3g
・大根	40g	・②粒入りマスタード	5g
・③ひじき	0.8g	・④オリーブ油	1g
・⑤オリーブ油	0.5g	・⑥塩	0.5g
・⑦だし汁	15g	・⑧こしょう	0.2g

【作り方】

- ①ひじきは洗って水に10~15分浸してもどし、水気を切る。②のオリーブ油でさっと炒めて③に浸す。
- ④水菜は4~5cmの長さに切る。大根は薄い輪切りにしてから千切りにし、冷水にとって水気をよくきる。
- ⑤②を合わせて器に盛り、①を汁ごとかけて全体を混ぜる。

フルーツ

たんぱく質 0.6g 脂質 0.1g
塩分 0g 食物繊維 1.7g

1人分

41kcal

【材料(1人分)】

・うさぎりんご	25g	・キウイフルーツ	50g
---------	-----	----------	-----



光陽中学校 2年生 職場体験学習レポート

光陽中学校から3人の生徒さんを職場体験学習にお迎えしました。今回のテーマは病院における“事務”のお仕事です。“事務”での職場体験学習をお引き受けしたのは初めてのことで、私たちも少々緊張しました。生徒さんたちはそれ以上に緊張しているようでしたが、病棟や医事課、用度課、地域医療連携センター、広報課など、「1日職員」としてあらゆる仕事に積極的に取り組んでくれました。昼食前には感染管理認定看護師(P6)からの手洗い指導。洗い残しの多さに驚いてもらいました!果たして、病院の“事務”という仕事の魅力を感じていただけでしょうか?体験後の感想を聞いてみました。



石井 さらさん

今回、職場体験で天使病院を訪問させていただきました。事務について学ばせてもらいました。様々な課を見学・体験させてもらい、医療の仕事は表の仕事である医師の方々だけではなく、裏の仕事である事務の方々もとても大変だということ学びました。今回経験させてもらったことをこれからの自分に活かしていきたいと思います。



田中 奨之さん

僕は、今日の職場体験学習で天使病院に1日職員として色々なことを学ばせていただきました。病院ではどのようなことをするのか知りたかったので楽しみでした。最初はすごく緊張していました。でも病院の方々がやさしくしてくださってありがとうございました。今回は本当にありがとうございました。



山崎 俊さん

今回、職場体験学習として、天使病院で1日職員として事務のお仕事を見学・体験させて頂きました。思っていた以上に内容が複雑でとても大変でした。しかし、その中で毎日命と向き合っていて働くみなさんを見て、憧れました。お忙しい中、活動させて頂きありがとうございました。



土曜日に乳がん検診を受けよう!

平日なかなか時間がとれない方にも乳がん検診を受けていただけるよう土曜日の乳がん検診「サタデーマンモ」を始めました。

実施日:毎週土曜日(祝日を除く)

受付:9:00~10:00

予約制:事前にお電話でご予約ください

《ご予約・問合せ》

天使病院健診室 または 外科外来

☎011-711-0101(代表)【月~金】13:00~17:00

病院機能評価認定病院になりました

病院機能評価は、医療の質の向上と信頼できる医療の確保を目的に公益財団法人日本医療機能評価機構が中立的・科学的・専門的な見地から行う第三者評価です。当院は、平成27年3月に受審し、9月4日付で認定を受けました。

これからも、急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院としてより一層貢献できるよう努めて参ります。



※糖尿病予防教室のお知らせはp6に掲載しました。

編集後記 「広報委員としての活動を振り返って」 ~広報誌委員より~

右も左もわからぬままスタートした広報委員としての1年。天使病院に入職して間もない私に果たして務まるのか…と不安でいっぱいでした。しかし、取材に協力してくださる職員・広報委員の皆さんのおかげで楽しく活動することができています。この広報誌を手にとった読者の皆さんに、天使病院の魅力が伝わるような情報をこれからも発信していきたい!!とっておりますので、これからも“広報誌天使びょういん”をよろしくをお願いします!

(臨床工学室 臨床工学技士 越前谷 朋香)



広報委員になって2年目になりますが、まず「当院に広報誌がある」ということから知り、正直最初は「広報なんて苦手だしやだな…」と思っていました(笑)。でも患者さんに向けてどんな内容を掲載しているのかを知ることができたり、看護師のこじかわからなかったことが、他職種のことも知る機会になったので、今では良かったと思っています!今後も読者の皆さんに当院の良さや情報提供をしていけるよう頑張っていきたいと思います!

(西4病棟 看護師 若槻 未希子)



広報誌 「天使びょういん」第39号

発行日 平成28年1月15日

発行人 院長 藤井ひとみ

編集 「天使びょういん」編集委員会

新年あけましておめでとうございます。

年初めの広報誌「天使びょういん」、楽しんでいただけましたでしょうか??

広報誌も新年度で4シーズン目を迎えます。さらに読者の皆さんに寄り添う身近な広報誌に、なれますよう情報を発信して参りますので、新シーズンにご期待下さい!